

後井郡田根沼

若狭尾越郡調塩三ノ

若狭尾越郡調塩三ノ

後井郡田根沼

若狭尾越郡調塩三ノ

若狭尾越郡調塩三ノ

若狭尾越郡調塩三ノ

若狭尾越郡調塩三ノ

若狭尾越郡調塩三ノ

七月

木簡紀行

——安堂遺跡の木簡——

若狭尾越郡調塩三ノ

若狭尾越郡調塩三ノ

若狭尾越郡調塩三ノ

若狭尾越郡調塩三ノ

若狭尾越郡調塩三ノ

若狭尾越郡調塩三ノ

若狭尾越郡調塩三ノ

若狭尾越郡調塩三ノ

若狭尾越郡調塩三ノ

若狭尾越郡調塩三ノ

若狭尾越郡調塩三ノ

若狭尾越郡調塩三ノ

若狭尾越郡調塩三ノ

柏原市立歴史資料館

文化財講演会

13:00~16:00 定員80名
申込不要 参加費無料

●7月18日(土)

馬場 基氏
(奈良文化財研究所主任研究員)

「木簡間ごう・塩のお話」

江浦 洋氏
(大阪府文化財センター次長)

「木簡からみた難波宮と大坂城」

●8月29日(土)

井上 幸氏
(奈良文化財研究所アソシエイトフェロ)

「木簡の文字をたずねて」

塚口義信氏
(堺女子短期大学名誉学長・名誉教授)

「安堂遺跡出土木簡の歴史的意義」

木片に墨で文字が書かれたものを、木簡(もっかん)といいます。約一三〇〇年前の奈良時代に多く使われ、人の呼び出しや伝票、送り物の荷札など、さまざまな場面で利用されていました。

今から三十年ほど前、市内の安堂遺跡から木簡六点が見つかりました。木簡には「若狭国」「調塩」「天平十八年(七四六)や、「近江国」などと記されており、当時の都・平城京から安堂遺跡へ運び込まれた塩や米に付けられていた荷札と考えられています。

こうした荷札木簡が見つかるのは、都や役所などがほとんどで、一般の遺跡から見つかることはまずありません。奈良時代の安堂遺跡には、何があったのでしょうか。

展示では、木簡に記された文字をたどりながら、関係する場所や資料に注目し、当時の柏原について考えてみたいと思います。

主な展示資料

安堂遺跡・木簡・木製品、智識寺跡・山下寺跡・大里寺跡・三宅寺跡・家原寺跡・鳥坂寺跡・軒瓦・墨書土器(以上当館)、難波宮跡・「戊申年」木簡(複製品、大阪文化財研究所)、平城宮跡・製塩土器(奈良文化財研究所)、近江国庁・飛雲文鬼瓦・軒瓦(滋賀県教育委員会)、軽野塔ノ塚廃寺・軒瓦(滋賀県立安土城考古博物館)、小立古墳・木製車輪(桜井市教育委員会)、智識寺復元模型(市民歴史クラブ製作)ほか



安堂遺跡で見つかった木簡と木製品

市民歴史大学

テーマ『大坂夏の陣と柏原』
13:30~15:00 定員100名
申込不要 参加費無料

●7月11日(土)

福田千鶴氏(九州大学教授)

「大坂の陣と後藤又兵衛」

●8月8日(土)

藤田達生氏(三重大学教授)

「藤堂高虎と大坂夏の陣」

柏原市立歴史資料館

9:00~16:30 入館無料

月曜休館(祝日は開館)

072-976-3430

大阪府柏原市高井田 1598-1

JR 関西本線「高井田駅」北へ5分

近鉄大阪駅「河内国分駅」北へ15分

